

# 中央大学学員会 第28号 49年白門会会報

発行日 平成26年6月14日(年2回発行)  
発行人 山崎 厚太  
発行所 中央大学学員会49年白門会  
印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局

49年白門会のホームページ → <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

49会のホームページから「会員の部屋」に入る際のユーザー名は49nen、パスワードはhakumonです。

49年白門会のメールアドレス → [hakumon49@gakuinkai.com](mailto:hakumon49@gakuinkai.com)

会員の皆様の登録・変更をお願いします。PC、携帯でも可能です。

# 49年白門会

(題字・葛西聖司)

## 40年間の中央大学職員を 振り返り

49年白門会幹事長 中島 章夫



静かにその日は訪れた。意外に短く感じられた40年間の職員生活。社人として胸はずませた昭和49年4月1日。期待は足元から崩れ去り、意気消沈した社人第一日目を今でも忘れられない。

同期入職の事務職は30名。当時本部は駿河台に、なんと小生のみが最も遠く離れた小金井の附属高校事務室勤務となりショック！ 追い打ちをかけるような「健康保険証」「雇用保険証」の交付がない。担当の人事課職員にこの旨を尋ねると「君はいいのー」の一言で何ら説明なし。不安と落胆が小生の頭の中を重くのしかかり、最悪の入職初日であった。

ちなみに49会の元副会長の荒木氏は法学部事務室、副会長の宮川氏は庶務課駿河台記念館分室勤務だった。あれから早40年がたち、よくぞ定

年まで勤められたこと、自分を誉めたい。40年間を振り返ると、多種多様な業務を経験できたことは、大学職員としてよかったと思う。附属高校事務室をスタートに、法人、教学、出版部(事業部)、学員会、125周年事務局、研究支援室等々の職場を経て、最後は自ら希望した映像言語メディアラボ事務室でゴールを迎えられたことは幸せだったと思う。定年を迎え、友人知人等から聞かれたことが再雇用制の利用についてで、これに対しては従前より一応の区切りとして再雇用は考えていなかったもので「マフソンのゴールを切った選手に、もう一つ週下ラックを走れ」ということと同じで、モチベー

## CONTENTS

- 1ページ
  - ★40年間の中央大学職員を振り返り 中島章夫
- 2ページ
  - ★友へのメッセージ 根本慎一
  - ★NHK見学レポート
  - ★新年会レポート
- 3ページ
  - ★新宿御苑観梅会
  - ★同期ゴルフ会
  - ★楽苦我喜 浜手基親
- 4ページ
  - ★総会のお知らせ
  - ★役員立候補者募集
  - ★会費納入のお願い
  - ★事業部掲示板
  - ★原稿募集
  - ★編集後記

ションも下がり、新たな仕事への意欲もわかないので再雇用はしませぬ！」と伝えると、「一様に「もったいないなあ！」この返事が返ってきた。では、何か新しいことを考えているのかというところ、当面は「健康第一！」と考えている。先般も49会同期の方が、夏のビアパーティーには元気な姿で出席されたが年末に逝去されたことや、中大職員でも、大震災の年に定年を迎えられた先輩が、退職後2か月で他界されたという現実を知り、第2の人生はいかに健康が大切であるかを思い知らされた。

独り身の自分としては、最低限でできる限りの健康に留意しなければならぬと思ひ、5月から早朝散歩と軽いジョギング等をはじめた。朝6時起床、7時から1時間ほど近くの富士森公園での軽いジョギング、柔軟も含めての早朝散歩。約1週間、3日坊主にならず続いている。

### そして退職の日……

最後に40年間勤めた中大職員生活では、学生との対応がやはり一番の想い出となり財産となったのではな

いかと思う。

幾人かの想い出深い学生の中で、ある雨の日に会った学生について紹介しよう。その日は本降りの雨の日であった。2人の女子学生が傘もささずに台車を引いていたのを見た私は、思わず「傘なくて大丈夫？」と尋ねると、彼女達は「大丈夫です！」との返答。でも心配した私は、とっさに置き傘を探し彼女達に渡すと「ありがとうございませう」と一礼してその場をわかれた。翌日の夕方、昨日のことを忘れていた私のところへ「昨日はありがとうございませう。先程Tセンターの方から聞いたのですが、今日で中央大学を辞められるのですよね、これ、ほんのお礼の気持ちです」と昨日の女子学生から「爽健美茶」を渡された。「どうもありがとう！貴女は何学部何年」と尋ねたら「法学部3年です！」1年の時何先生の演習を受けたの、がんばってネー」等々のやり取り。職員として最高のプレゼントと素晴らしき良き想い出になったこの日は、平成26年3月31日、職員最後の日であった。



杯の発声をしていただきました。

6名が初参加の方でした。このうち3名が会員の田中正道さん(法)の友達。田仲さんはクラスの7名に手紙を出しこの新年会に参加するように誘ったそうです。3名から参加の返事をもらい、当日御茶ノ水駅近くの喫茶店で落ち合うことになりました。4人とも40年前とは髪も体型も別人でしたが、会はずすぐに40年前に戻ることができたそうです。

今年の新年会は愛知県の加納幹郎さん(経)に和菓子、八丁味噌、新潟県の松平守さん(経)に日本酒等の地元の商品を購入してもらい、それを抽選でプレゼントしました。葛西さんからも年末に刊行された「歌謡曲の力」と歌舞伎座のカレンダーが数部提供され、葛西さんの司会進行でじゃんけんによる抽選会は、20分位異常な盛り上がりを見ました。

宴もたけなわの頃、スピーカーから「中大節」が流れると、落ち研出身の石川さんが飛び出して節に合わせて場内を練り歩きます。その肩に根本さんがかかり、その肩に村岡さん、原さんが……10人以上の列になって会場を練り歩くという光景が繰り広げられました。最後の締めは山崎司平副会長(法)。背中や腰が曲がる年齢なので背を伸ばししょう、という提案で「万歳三唱」で締めました。(広報部:大竹力三)

新宿御苑  
観梅会  
2014年  
3月8日(土)

今年度最後のイベントは、東京に

住んだことがあれば誰でも知っているながら、なかなか立ち寄ることのない都心の名所「新宿御苑」で寒梅を観る会でした。

前日までは寒い日が続き、心配された天候でしたが、当日は晴れ渡り、風もなく、日向では春らしい温もりを感じる陽気となりました。10時30分、新宿門に集まったのは男性ばかり19名!

一団は、日本庭園に入り、茶室兼羽亭の前を通り、2月の大雪で無残にも大枝が折れながらも健気に花を咲かせた寒桜の前で自由行動となり、11時半に大木戸門で落ち合うことにして、めいめい広い園内に散っていきました。

筆者はイギリス風景式庭園の広々とした芝生に寝転がって、しばし日光浴を楽しみましたが、その頃別のグループは、陽気な増澤さんの掲げた中大の旗を見つけて近づく初老のご婦人と遭遇。ご主人が中大OBで聞けば我々の13年先輩という奇遇。そこへご主人も現れて、大いに話が盛り上がったそうです。

我々一行は大木戸門から出て、御苑の程近くにある高橋和幸カメフラムの撮影スタジオに向かいました。高橋さんが宴会場に提供してくれたスタジオには、既にテーブルが置かれ、奥様が昨日から仕込んでくださったおでん鍋が並んでいます。

早速、山崎厚太会長の音頭で乾杯して、今日のメインイベントの始まりです。男ばかりの宴会は酔っぼ

に、文字には表せない××な話題で大いに盛り上がりました。

ホストの高橋さん手作りのお好み焼きもいたたきながら、遠い青春の思い出の話も尽きないうちに15時となり、山崎司平副会長の三本締めでお開きとなりました。(法:益田耕二)

49年白門  
ゴルフ会  
2014年  
4月4日(金)

第10回のゴルフ会が、埼玉県の飯能パークカントリーで開催されました。今回は3名の新たなメンバーを加え、4組15名で実施されました。

1打目のドライバーは緊張いたします。ティアアップして、素振りをして、周りの桜に目をやると、穏やかな染井吉野の色合いが気持ちを和やかにしてくれました。コースをたどる度に傍に遠目に、万葉(ばんだ)の桜が我々を迎えてくれました。その他にも濃いピンクの山つつじや真っ白なモクレンも満開で、緑のグリーンと相まって一幅の絵を観るようなホールもありました。

今回、6戦目にして初めて、優勝することができました。要因を考えますと

①ハンディに恵まれていた。ハンディは申し上げられませんが、参加者の中では最高でした。

②同伴競技者の人柄のよさ。メンバーの萩原さん、宮崎から参加の黒木さん(私をこの会に誘ってくれた人)、そしてニューメンバーの根本さん。厳しいルールを守りつつ、小生の拙いプレイにも目をつぶって

ただき、和氣譚々としてプレイする事ができました。

③相対的に上級者のスコアが良くなかった。

以上の要因が挙げられますが、何といつても、日程調整からコース予

約等何から何までお世話になってます会長の高木さん並びに奥様、本当に有難うございました。

今回は10月のホームカミングデーの翌日の月曜日開催が予定されているそうです。(商・南 増明)

# 楽苦我喜

浜手基親(文)  
富山県 氷見市

## 「農」のすすめ

親、先祖が残してくれた田畑が50アールほどあり、そこに何とか草を生やさないようにしているが、お百姓さんにはなりきれずポチポチ精神で畑作業している。水田は営農組合にコメを作ってもらい、恥ずかしながら一部は耕作放棄地になっている。

畑はこの時期、スイカや甘ウリ、トマト、ナス、ピーマンなど生育中で、夏の収穫を目指している。春に植えたジャガイモはだいぶ大きくなって掘り出しはもうすぐだ。定年退職後に購入した中古のトラックターや軽四トラックを駆って畑へ出るのが楽しみである。

その畑では、小学二、三年の五月ごろ、担任の女先生のピアノ伴奏でよく歌った「みどりのそよ風」を思い出しながら口ずさんでみた。担任はとうに八十歳を超えた。七色畑に妹のつまみ菜つむ手がかわいいな……。あのころは純真だったなと、ひとりの苦笑いする。

いろんな欲が身に付き、そのどれもほとんど成就しないままごまて来た。だが、思い通りに行かないのが人生。だからおもしろいのもれない。農作業をしていると無心になれる、欲得から解放された素直な心の自分があることに気付かされ、「いま、こうして健康で畑仕事ができることは幸せ」と思ってしまうから不思議だ。

心の乱れがないことが、人生の後半戦を迎えたい者には必要なのかもしれない。「農」は大自然が相手。きれいな空気が、雨、風、豊かな土壌は欠かせない。それに加えて、人間の知恵と技術力を高めて、野菜たちが本来持っている力、味を引き出す魅力がある。「農」のすすめで純真な心を持ち続けたい。

# 2014年 総会のお知らせ

## 「49年白門会」役員 立候補者募集

今年度の総会は役員改選期です。役員（会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計監事）に立候補しようとする人は、6月28日（土）までに、書面で左記の選挙管理委員長までに申し出て下さい。

（宛先）〒100-8304

東京都千代田区神田駿河台3-11-5

中央大学駿河台記念館学生会事務局気付

49年白門会 選挙管理委員長 宮川 保

## 2014年度 会費納入のお願い

「49年白門会」は、皆様の会費によって運営されています。14年度の活動期間は2014年4月1日～2015年3月31日です。会費はなるべく同封の手料料を49会が負担する郵便振替用紙で7月31日までに納入して下さい。総会の会場でも納入できます。

「49年白門会」の2014年の総会が開かれます。今回は中大を卒業してから40周年という節目の総会です。40年前のクラスメイトに声をかけて、参加をお誘いください。多くの方が定年を迎え、しがらみも肩書も無い皆様の楽しいサロンとも言えるべき「49年白門会」になりますように是非ご出席をお願いします。総会の開始を12時にし、懇親会は12時半のランチタイムになっております。

日時・平成26年7月12日（土）

午後0時（11時半より受付）

場所・お茶の水ホテルジュラク

孔雀の間

（東京都千代田区神田淡路町2-1-9）

懇親会・12時半～3時 孔雀の間

会費は800円です。

## 事業部掲示板

施が決まりましたらホームページやメールでお知らせいたします

◎総会・懇親会 7月12日（土）

\*同封された案内状をお読みください。

◎ビアパーティー

8月9日（土）

アサヒビールタワー

◎ホームカミングデー

10月26日（日）

◎葛西臨海水族館

11月22日（土）

◎新年会

平成27年1月24日（土）

「お茶の水ホテルジュラク」

◎日銀貨幣博物館見学

平成27年3月14日（土）

## ●会費納入のお願い

49年白門会は会費によって運営されています。2014年度の会費を納めてくださるようお願いいたします。

2014年度の活動期間は2014年4月1日～2015年3月31日です。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替（手数料は49会が負担します。）

振替口座番号「00180-3-196081」

口座名称「49年白門会」

②銀行振込（振込手数料が必要です）

銀行名 三菱東京UFJ銀行 調布支店 普通預金「1979382」

口座名 49年白門会 渡邊秀和

（ヨンジウウキウネンハクモンカイ ワタナベ ヒデカス）

## ●49年白門会事務局

\*住所変更、新規会員紹介の御連絡、会報への御意見などをお寄せください。

49年白門会副幹事長 益田耕二

105-0013 東京都港区浜松町1-24-5 第3河原ビル3階

サザンフラックス労務室

Tel 03-5401-7545 Fax 03-5401-0898

※メールアドレスの登録・変更は [hakumon49@gakuinkai.com](mailto:hakumon49@gakuinkai.com) にご連絡ください。

その後の未納の方には随時納入のお願いのお手紙を差し上げる予定です。皆様のご協力をお願いします。

（会計部）

2014年度の行事予定です。時間や集合場所等詳細は未定です。実

## 編集 後記

## 歴史ウォーク 三昧

三年半前に司法書士の仕事を少し調整して歴男・歴女の仲間を求めて、法政大学通信教育部文学部史学科に学士入学した。

入学するまで、いくら通信教育でも自分の年齢はかなりの上の方だと思いついて入ったが、入ってみるとこんでもない。六十歳の私がごく平均的な学生で、七十歳から八十歳台の学生がたくさんいて、彼らが一番前の

席を奪い合い、図書館でも熱心に勉強している姿を目にして気合を入れられる。

中には、四十数年かかって卒業した人や、定年後に通教の史学科に入り、さらに大学院に進学し、七十五歳で博士号をとった努力家の方もいた。ともかく色々な学びの人生に刺激されるばかりだ。

一昨年、史学科の仲間と「史跡めぐりの会」を作り、年に数回東京近郊の史跡を訪ねて歩き廻っている。作ってまだ二年も経たないのに、もう六十数名の会員がいるほどの盛況だ。老歴女・歴男から、戦時中の学童疎開や空襲体験を聞きながら歩くのも楽しいものだ。

人生三毛作、これからも充実した日々を送りたい。

（藤本 真也）

## 原稿募集

次号掲載の「会員からのエッセー」では「卒業40年間で忘れられないあの事」というテーマで原稿を募集いたします。

転勤、転職、事故、手術、結婚など、卒業後の40年間で、人生の転機となった出来事があったと思います。その思い出に残る事を500字前後で事務局まで送って下さい。締め切りは10月末日です。

広報部からメールで依頼することも有りますのでその際はご協力お願いいたします。